

先生にこつそり大方のものが雲をたべた、富士山頂の雪壽命が延びるかもしれないとおもつて一度ならず喰べた、冷い雪水に蘇り元氣新らしく下山のの道についた、石室の前から砂道に出る此の間は山骨高く急勾配であるから急がずさわがずそろそろと下りるがよいと合力に注意されたが一步出せば三間も滑るので遂に急ぐ様になる止め様と思ふ時は寝るより外に仕方がない、一走り八合目まで降つた砂をはらひ草鞋をはきかへ腹ごしらへをして一寸足を休めた、弱つたものも餘程ある、その大方は頭痛がして嘔吐を催すのである、それから一路大砂走道を一蹴して直下五合目まで一息に摺り下つた途中ある時は雲に圍まれて一間先をゆく人さへ見えなかつた事もあつた、莫塵も衣服もしつぼり、髪や眉毛からぼたり〜と白露がこぼれて居た、しかし登山の苦しみに比ぶれば下山は眠つて居るも下りられる位雲をふみ風を卸して下界に降る思ひがある、天人のあま下りもかきやとおもはれた、五合目で砂をはらひ草鞋を取りかへまたすべるこれより以下樹林多く翠緑衣袂を染めんとする、薄黒い巖石と赭色の焦砂に目馴て草木の緑に飢ゑた目は此の樹林に入りて初めて蘇り爽快を覺えた、山酔ひをした連中も元氣を恢復した、一夕立の雲の一群が過ぎ去つた後は緑の色も一入濃く今を盛りと咲き亂れた、櫻

に鶯の聲を聞いた時は自然の妙美を嘆息せずには居られなかつた。

植物の種は登りの時のそれと殆んど變はりがない、目新しいものがあるとそれには遠慮もなく胴籠の中に葬つた、さきにとりし標本の不完全なものはこの下りでもとりかへることにした緑の間から淡紅色の頬を出して笑める石南をみては見捨てがたくていく度か草をわけて訪れ胴籠にも手にもあふるゝまで手折つた、採集も家づとも充分に出来たれば大得意になり濶歩して須走りについたのは午後六時すぎであつた、薄明りの路を馬に引かれて「ぎほ一し」の花咲く野原をすぎなつかしい富士に一揖して別れた、螢の飛んで居る田の中を通り御殿場についたのは八時を過ぎた頃であつた、富士登山もかくして終へたのである。

## 世 の 中 ローマ字と飛行機

電氣俱樂部茶話會の席上「ローマ字と飛行機」と題する談話の一節の大要下の如し。

諸君の中には「ローマ字と飛行機」と何の関係ありやと謂はるゝ人あらんも決して然らず。飛行機は工業の發達に待たざるべからず、工業の發達は又國字の便不便に



關す。依て羅馬字問題は飛行機問題と因果の關係ありと謂ふも何の不可あらむ。

今日我國の飛行機が四時間繼續して飛びたりとか或は三千米突の高空に昇りたりとかいふを以て、歐米各國の夫れに比して非常の進歩發達をなせる如く感ずる人もあるべく、又新聞紙上に於ては盛に稱揚し居れども、其の實之を以て歐米に比すれば遺憾ながら及ばざること遠し。

歐米諸國の飛行機は、時間に於て二十四時間、高さに於て八千米といふ[レコード]を示し居るにあらずや。故に飛行機の飛ぶも只飛ぶにあらず、之を飛ばしむる源因ありて始めて飛ぶなり。即ち飛行機の製造は[エンジン]の發明ありて始めて成り、之を飛ばすには熟練なる乗手と正確なる氣流の測定とを要す。これ等の事柄が關聯して發達するにあざれば、飛行は不可能なり。故に飛行機の飛ぶと否とは單純なる飛行機そのもの、問題にあらずして、一國文化の進否をなすべき問題なりと謂ふも可なり。

然らば何故に我國の文化がかく歐米よりも遅れ居るか、特に機械工業の如きは何故かく遙かに後れ居るか、是れ日常吾々の使用する文字の不便なるを最大源因となさざるべからず。博士會が博士を推薦するが如きは、第

この問題として、先づ國民教育の改善より急なるはなし。今日我國の小學卒業者所謂義務教育を了へたるもの、實用的學力は如何、顧ふに到底官報を讀み得る力はあらざるべし。否小學に限らず、高等の教育を受けたる人、現に茲に集まつて居らるゝ人の中にも、恐らく官報を正しく讀み得る人は一人もあらざるべし。大中學生にして其の國の法律命令を讀み得ざる國とて何處にありや。畢竟是れ文字の不便なるによる弊なり。人の姓にて北條と書きたるものあり[ホウゼウ]かと思へば[キタノゼウ]ならんとは、豈に常識を以て判斷し得べけんや。此の如き例は枚舉に遑あらず。これ實に文字の不便より來る弊なりと謂はざるべからず。特に我國に於て目下使用し居る漢字は平均六通りの訓あるを以て、小學生徒が之を一字覺るには、歐米の文字六つを覺る丈け腦力を費さざるべからず。故に概算して文字のため小學六年の義務教育中二年は損し居る割合なり。假に一年間の小學兒童の教育費を五拾圓とせば、全國の總額に七億餘圓に上り、政府の總收入よりも多くなるが故に二師團三師團増設の如きは、此の單純なる問題をだに解決すれば、必ずしも政治家の争を要せず。

勿論國字を改良するには、必ずしも羅馬字採用に限らず。文部省の如き、屢々漢字制限を企て、或は一千字と限



りたるも、同時に我國の法律命令其他新聞雜誌の如きも、千字以上を使用せざることに制限せざりしを以て、非常なる不便を來し、遂に百字増し二百字増し、今は全く無制限となり終れり。

故に漢字制限は全く意味をなさず。然らば假名を用ふることは如何といふに、之を用ふるに便なる場合もあれども元來補助字として用ゐる來りしものなるを以て之を獨立の國字としては不適なるを免れず。

勿論羅馬字と雖ども決して完全なるものにあらず長短相伴なふ。然れども其の長を取り短を補ふて、之を我國の實際に使用するに便なる様改良せば、頗る良好なる國字たるべし。今其の長所に就きて見るも、世界の各國と共通的なること、之を學習するに容易なること、之を印刷するに便なること等にして、歐米各國の如き諸會社官廳にて用事のある場合には、之を蓄音機に向て述べ蓄音機より「タイプライター」にて印刷して直ちに之を其の人の所に提出して校正を謂ひ得るが如し。我國にては一時間演説せることを速記して、之を翻譯すれば、普通半紙100枚以上となり、中々大仕事なり。是等は文字の不便なる一例なるより、羅馬字の採用により此の不便を除去することを得べし。但し羅馬字にも種々ありて、歐米諸國一定し居るにはあらず。我國の如きは「ヘボン」博士が

外國人をして日本語を學ばず爲め編纂せるものを用ひ居るも、之を以て完全なりとすること能はず。尙充分研究するを肝要なりとす。云々。

### 此野蠻の文字

兒童集まりて一文字の讀み方を争ふ、一兒曰く、是れ「ね」の字なり他の一兒曰く是れ「こ」の字なり、又他の一童曰く是れ「ぶる」といふ字なり「卓子」〔テーブル〕の「ぶる」といふ字なりと、斯くして兒童の頭腦は惑亂せらる、嗚呼野蠻の文字日本が支那の文字を使用する間、我文明の進歩は到底遅々たるを免れざるなり、「ローマ字」なるかな速かに「ローマ字」を採用せよ。

支那が文明に遅れたるは文字の爲なり、我國が支那の文字を使用する爲めの損害を試みに金錢を以て計算すれば毎年幾億圓にも値すべし。吾人は我文明の爲めに漢字を呪ふ。(大正四年十一月二十三日萬朝報所載)

### 現在無線電信局

陸上及び船舶の現在無線電信局左の如し。  
陸上局 大瀬崎(肥前五島)電力二十五基。落石(根室)同三